

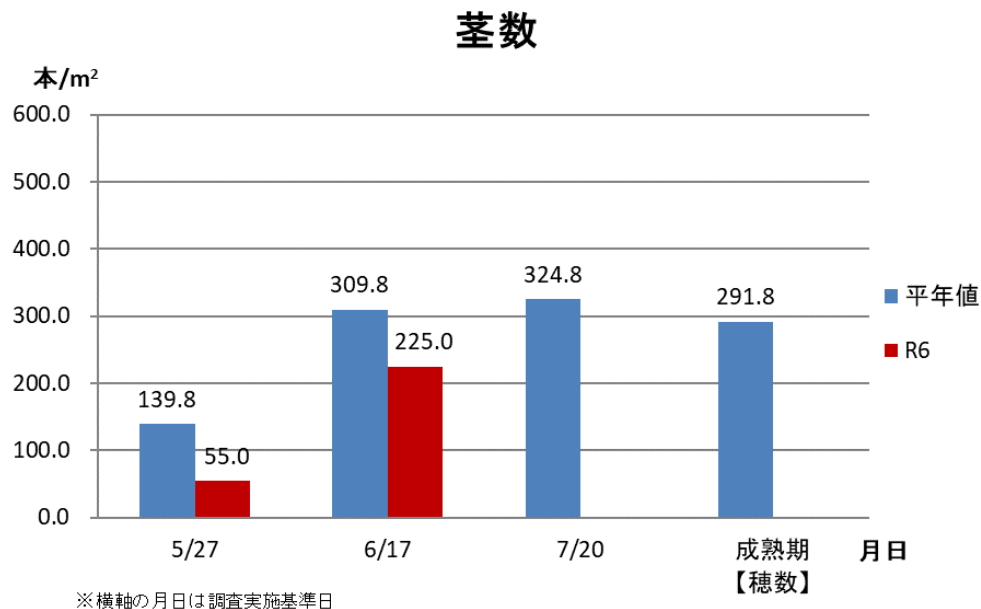
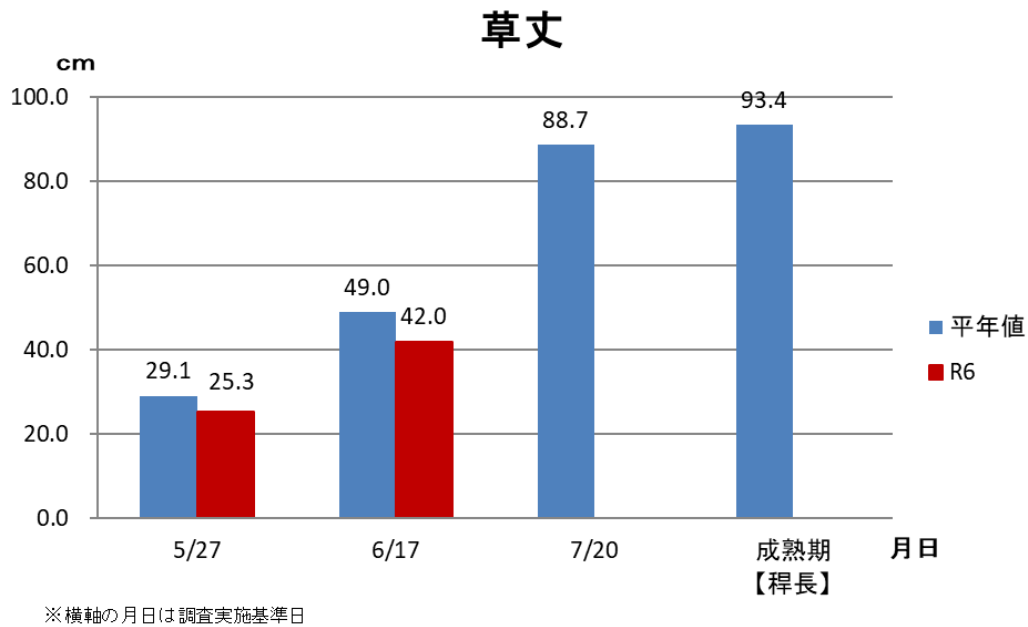
# 令和6年度 農作物（水稻）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稻の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稻の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

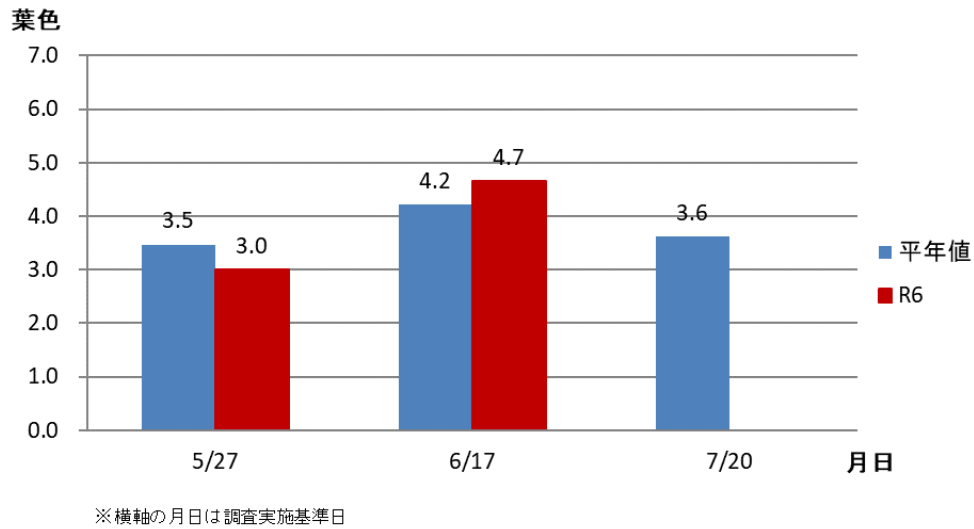
## 1. 水稻の生育および病虫害発生調査結果（第2回）

### 1) 水戸市の調査結果

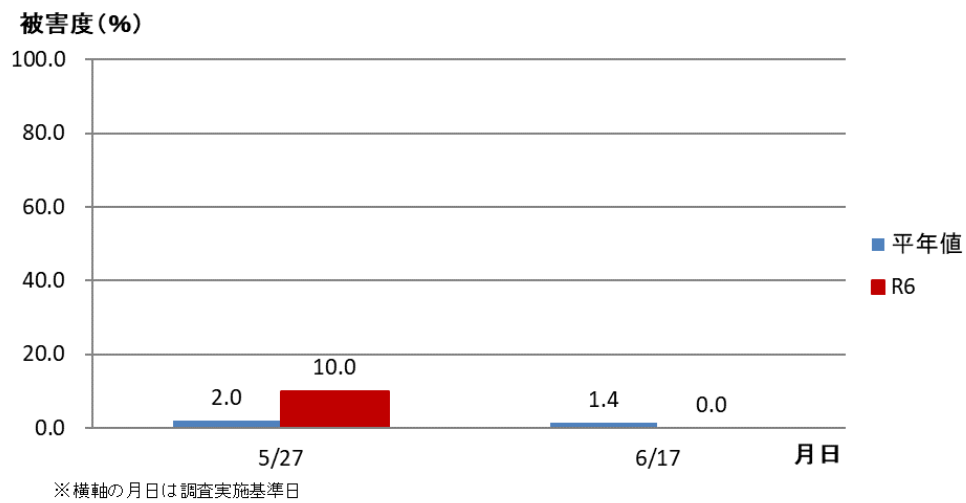
調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月6日	6月17日



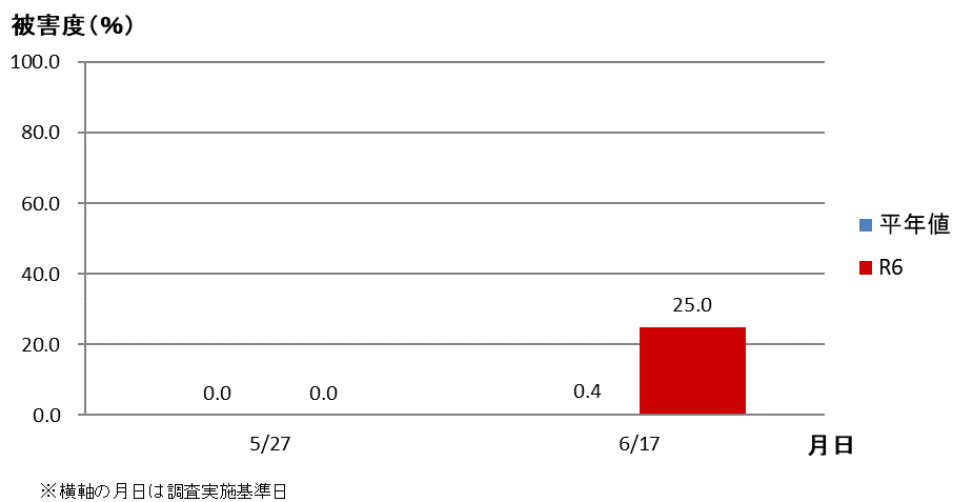
## 葉色(カラースケール)



## イネミズゾウムシ



## イネドロオウムシ



○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は令和1年～令和5年の5年間の平均値

#### ○生育調査の結果について

##### 【生育状況：過去5カ年の平均値との比較】

生育は、過去5カ年の平均値に対し、草丈は低く、茎数は少なく、葉色はやや濃くなっています。

##### 【今後の管理上の注意点】

茎数が少なく推移していますが、今後、茎数330本/m<sup>2</sup>が確保された場合、速やかに中干しを開始しましょう。

基肥＋追肥体系の「コシヒカリ」では、出穂20日前の生育が、草丈80cm以下、葉色4.0以下であれば、穂肥として出穂前15日を目安に窒素成分で1～2kg/10aを施用しましょう。

また、今年は梅雨の開始が遅れていますが、梅雨時期において、確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

#### ○病虫害発生調査の結果について

当該圃場では、イネドロオイムシの発生が増加傾向にあります。幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行いましょう。

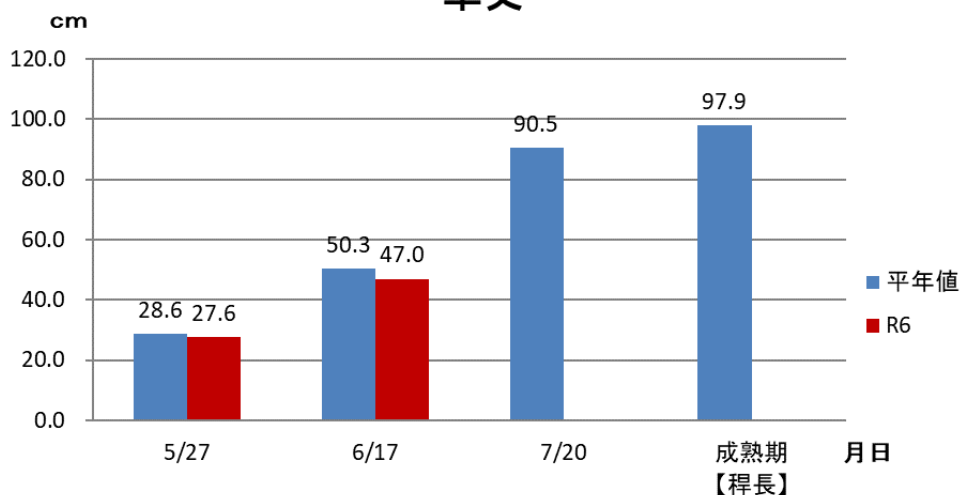
梅雨時期ですのでいもち病の発生に注意して下さい。

今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する2週間前までに畦畔の除草作業を完了させて下さい。

## 2) 茨城町の調査結果

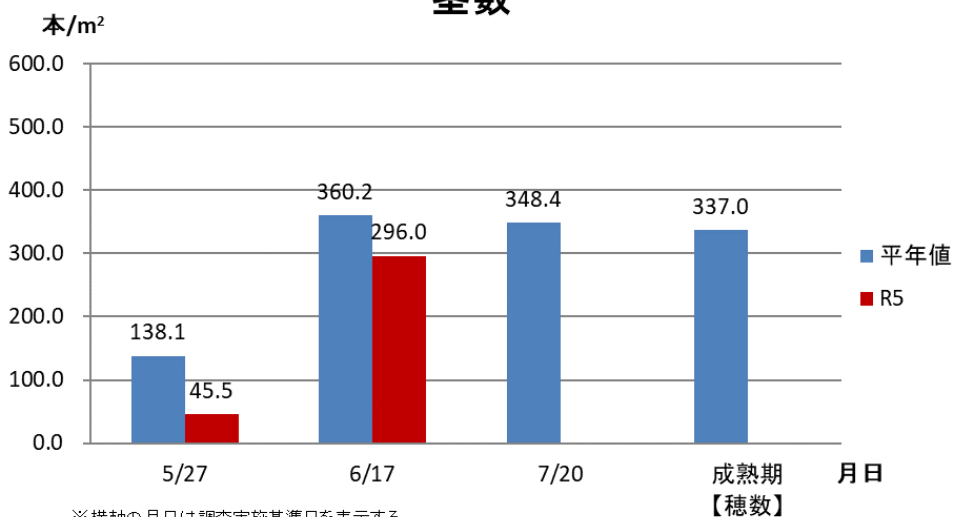
調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月11日	6月17日

### 草丈



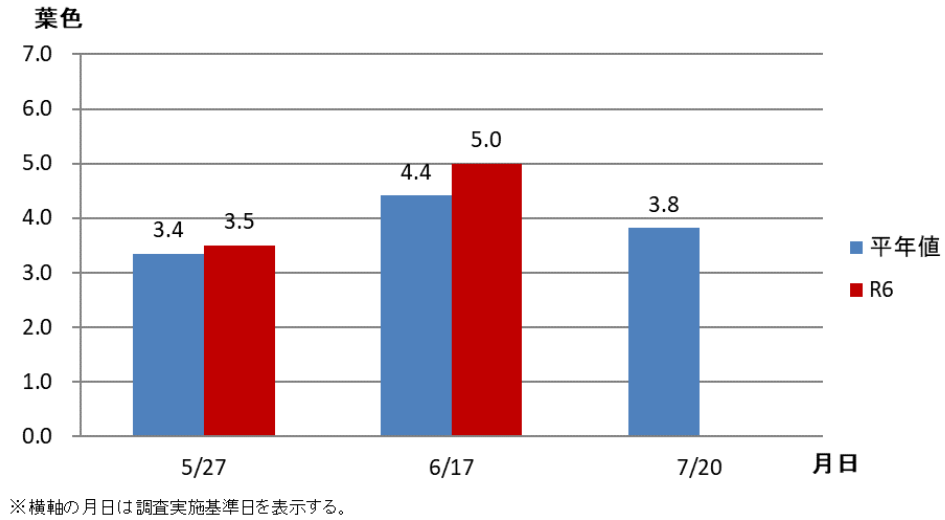
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

### 茎数

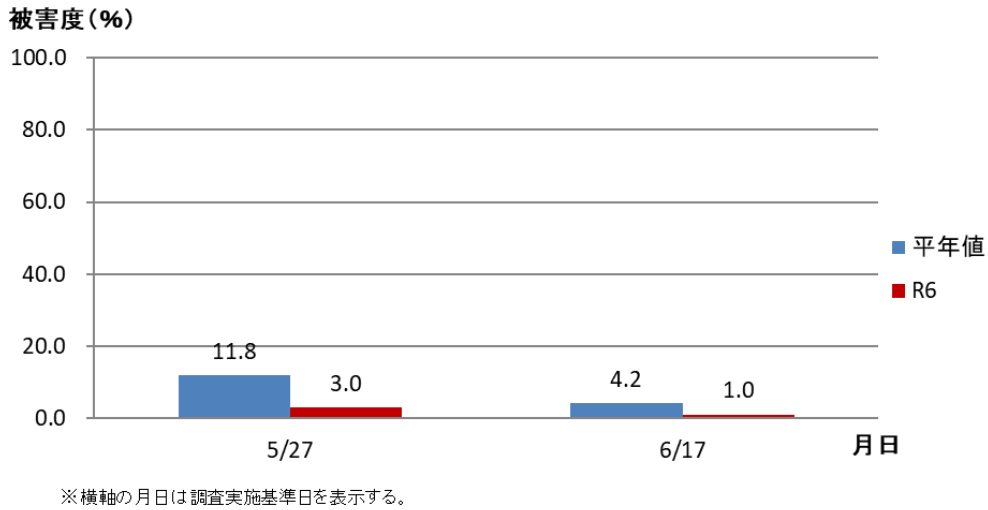


※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

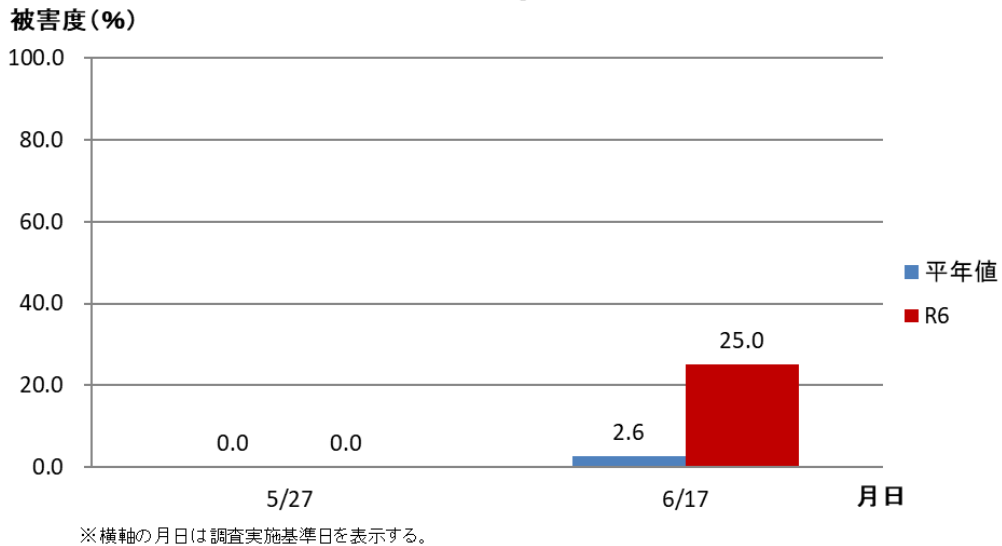
## 葉色(カラスケール)



## イネミズゾウムシ



## イネドロオウムシ



○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は令和1年～令和5年の5年間の平均

## ○生育調査の結果について

### 【生育状況：過去5カ年の平均値との比較】

生育は、過去5カ年の平均値に対し、草丈はやや低く、茎数はやや少なく、葉色は濃くなっています。

### 【今後の管理上の注意点】

茎数がやや少なく推移していますが、気象庁の向こう1か月の天候が、平均気温は高いと予報されており、茎数が急激に増加することが予想されますので、中干し適期を逃さないように注意しましょう。

基肥＋追肥体系の「コシヒカリ」では、出穂20日前の生育が、草丈80cm以下、葉色4.0以下であれば、穂肥として出穂前15日を目安に窒素成分で1～2kg/10aを施用しましょう。

また、今年は梅雨の開始が遅れていますが、梅雨時期において、確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

## ○病虫害発生調査の結果について

当該圃場では、イネドロオイムシの発生が増加傾向にあります。幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行きましょう。

梅雨時期ですのでいもち病の発生に注意して下さい。

今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する2週間前までに畦畔の除草作業を完了させて下さい。

## 2. 次回調査日

7月19日

茨城県農業共済組合連合会調べ  
協力：茨城県農業総合センター